関西自然保護機構会誌 *24*（*2*）：*121－122, 2003*

近畿地方から絶滅した植物　12

村　田　　源

Extinct plants from Kinki District, Japan. 12. Gen Murata

アツモリソウ

Cypripedium macranthum Sw.
var. speciosum（Rolfe）Koidz.（ラン科）

山地の疎林や草地に生える稀な多年草。高さ30～50 cm。葉は数枚互生し長楕円形で長さ20～40 cm，巾5～8 cmになるが，下部のものは跨状となる。花は茎頂に1個つき，5～7月頃に咲き，淡紅－紅紫色。背面の萼片は卵形で先が鋭く尖る。下側のものは広卵形でそれよりやや短いが，先が2裂していることによって2片が合生して出来たものであることを示している。側花弁（内花被片）2個は広披針形で先が尖って開出し，中央のものは大きい袋状の唇弁となっている。

大陸ではアジア東北部からヨーロッパ東部にかけて広く分布し，日本では北海道，本州の中部以北の山地に今でも見られるが，個体数は少ない。「改訂日本の絶滅のおそれのある野生生物」（環境庁編，2000）によると，東京，神奈川，静岡，京都の各都府県ではすでに絶滅しており，茨城，群馬，栃木，埼玉の各県では情報不足で生存があやぶまれている。近畿地方では京都府だけに記録されている（竹内，1962；村田，2000）。一般に高山植物のように取り扱われていることがあるが，決して高山植物ではなく，ユーラシア大陸に共通に分布圏を持つ温帯生植物である。

京都府では京都市左京区にある大悲山の裏の桑谷で1939年6月10日に竹内敬によって採集されている（図1）。その標本ラベルにあるメモによると，当時八枡小学校長であった中津勝男氏が発見され，現地に案内していただいたとある。竹内敬による標本や記録が残されていなっかたら，本種が京都府にまでかつては分布していて，現在絶滅してしまったということもわからなかったのである。同氏は教職の傍ら，明治39年から昭和36年まで，一人で京都府下の植物調査に努力さ



図1． アツモリソウ *Cypripedium macranthum* Sw. var. *speciosum*（Rolfe）Koidz.
京都大悲山桑谷 1937. 6. 30. 竹内敬採集の標本．京都府立植物園にて村田源撮影．

れ,その成果を「京都府草木誌」に残された。氏の努力に対しここに厚く謝意を表したい。

桑谷はかってアシウスギの天然木を含むすばらしい原生林が残されていたというが，大東亜戦争後伐採されて，今では昔の面影をしのぶよすがも無い。なお，この谷ではギョウジャニンニク（1935. 5. 14），ルイヨウショマ（1952. 7. 29），同氏採集の標本が京都府立植物園に残されている（村田，1999）。

引用文献

環境庁（編）. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　植物Ⅰ（維管束植物）2000. 16＋660pp. 自然環境研究センター，東京.

竹内敬. 1962. 京都府草木誌. 157＋26pp 宗教法人大本. 亀岡.

村田源. 1999. 京都府立植物園に残された竹内敬先生の標本の再検討7，京都植物24(4)：10－12.

――. 2000. 京都府立植物園に残された竹内敬先生の標本の再検討11，京都植物25(2)：13－14.